



発行日:2015.9.17

発行者:福間幸夫

1泊(厩岳山)2日(猫魔ヶ岳→雄国沼→厩岳山→下山) [山行記録は添付参照](#)

## 雨の雄国沼外輪山猫魔ヶ岳 今回の山旅の最高線量値=0.42 $\mu$ Sv/h

今回の福ちゃんの山旅は、放射線量測定の旅ではない。6月の梅雨時期の山旅が出来なかったため夏山シーズンも終わりの山行となった。福ちゃん、この夏7、8月は酒々井シルバー人材センターの仕事(酒々井ちびっこ天国の駐車場係りとコスモ石油給油係り)で多忙であった。そこに安法法制阻止のチラシのPostingが入り、一層忙しい夏であった。そこで、気分転換にと会津磐梯山の西、雄国沼の外輪山の山旅となったのである。雨も想定内、またニコウキスゲなどの高山の花の季節も過ぎていたが、出掛けることにした。

出発日8月22日は、土曜日であったので意外と電車は混んでいて、往きの電車は途中までは座れなかった。今日の終点・JR 磐梯町駅で降りたのは福ちゃんだけであった。駅にはアルバイトらしき駅員さんが一人いるだけで、ガラんとした静かな寂しい駅であった。その駅員さんにタクシー会社の電話番号を訊く。それは駅の窓口の横に貼ってある。だと。早速タクシー会社に電話すると20分位で来る、との事。間もなくタクシーが来て、乗り込む。「厩岳山の登山口まで」と言うと、運転手さん、厩岳山というのがどこにあるのかご存知ないようなので、福ちゃん、「登山口に栄川(さかえかわ)酒造という酒造会社がある所」と言うと、運転手さん、「えいせん酒造さんですね」と。間もなく、その栄川酒造(株)前の駐車場に着く。厩岳山の登山口は、その駐車場の手前左の林道を500mばかり行った所にあった。



↑ 厩岳山登山口の案内板



↑ 厩岳山登山道入口

暫らく林道を更に北に向かって歩く。40分ばかり行くと林道を外れ、山道となる。更にブナとミズナラ樹林帯の九十九折りの登り道になると三十三観音菩薩の石仏とその説明版が続く。この説明版には、石仏の寄贈者の名前と関西の有名な寺院の創建者(天皇や高僧)の詠歌(短歌)が記載されている。福ちゃん、この詠歌一番から三十三番まで読み、写真を撮りながら登って行く。この観音菩薩石像三十三番の終点に厩岳山神社?がある。ガイドブックには神社とあるが、福ちゃんの見立ては行基開山の寺院と思う。よって、福ちゃんは柏手を打たないで合掌して、更に厩岳山山頂を目指して登る。



↑ 観音菩薩石造の説明版とご詠歌



↑ 厩嶽山神社横 行基清水



← 厩嶽山神社?

ほどなく厩岳山山頂に着く。山頂には岩が 2, 3 個あった。ところがその岩の間にマムシがいるではないか。福ちゃんにはヘビ(青大将、シマヘビなど)が大嫌いなのだが、しかもそれがマムシとは参った。そのマムシをステッキで追っ払うと岩の下の方にもぐり込んで行った。山頂にはテントを張るのにはギリギリの僅かばかりの平地があった。直ぐに露営準備である。



↑ 厩岳山山頂 1261m



↑ 福ちゃん愛用のテント@厩岳山山頂



↑ 猫魔ヶ岳 from 厩岳山山頂



↑ 雄国沼 from 厩岳山山頂

厩岳山山頂の地表面の放射線量は  $0.42 \mu\text{Sv/h}$  ( $3.7\text{mSv/y}$ )もあり、これには福ちゃん驚いた。厩岳山は、フクイチからはその西北西  $283^\circ$ 、直線で  $92 \text{ km}$ の地点にある。阿武隈高地を越え、福島県中通りを経て会津磐梯山の西麓にある磐梯朝日国立公園内の一角の山である。マムシが近くにいると思うと気持ちが悪いので、持参の焼酎を全部飲み干し、テントのジッパーをしっかりと締めて眠りに着く。(8月22日(土)21:20 就寝)

8月23日(日)4:20起床。(今日は終日、雨。福ちゃんは山陰の6月生まれでか?雨は嫌いではない。)

直ぐに寝袋などをザックに片付け、アタックザックに水と行動食を詰めて出発(5:25)。昨夜の酒が少し残っており、やや行動が鈍く、予定より25分遅れの出発である。それでも背負う荷が軽いので足は軽い。



↑ 厩岳山/猫魔ヶ岳分岐点の表示



↑ 猫魔ヶ岳山頂一等三角点  $1404.00\text{m}$ (注)

厩岳山から1時間余りで猫魔ヶ岳山頂に着く。今回の山行の最高峰である。小雨(霧雨)で眺望は無い。写真を撮り、軽く行動食を取ると雄国沼に向けて下山。(注:最近はこの山の標高はGPS測量で少数点以下2桁cmの単位である。これは地震などによる地形変動を測定するためとか?)



↑ 猫石 2015.8.23. 7:13



↑ 雄国沼休憩所 2015.8.23. 8:14

猫魔ヶ岳山頂から約1時間半ばかり歩き雄国沼休憩所にたどり着く。綺麗な小屋である。ここで福ちゃん小休止である。トイレに行き、軽く行動食を食す。そこに今山行、初の人に出くわす。雄子沢登山口から来たと言う老夫婦である。このコースは雄国沼のお花畑のシーズンになれば、さぞかし老若男女のハイカーで賑わう行列のコースであろう。福ちゃんは、帰りのJRの時刻が気になるので先を急ぐ。



↑雄国沼休憩所内の掲示板



↑ミヤマシシウド 2015.8.23. 8:59@雄国沼



↑金沢峠展望台 眼下に雄国沼



↑栄川酒造のワンカップ@下山口で購入

金沢峠展望台から雄国沼から厩岳山への雄国沼南コースは林道であるが、荒れ放題の道である。恐らくは普通のハイカーや登山者は通らないであろう。福ちゃんはその道を一人黙々と歩き続ける。保革油を塗った登山靴もさすがに靴下までズブ濡れになる。かなり飛ばしたので予定の遅れ時間をリカバーし、ベースキャンプの厩岳山山頂に辿り着く。ベースキャンプに着くと直ちにテントを撤収し、下山開始(AM11:00)。

食料と荷揚げした3リッターの水は減ったが、雨を十分に吸い込んだテントはやはり重い。1時間余りで厩岳山登山口に辿り着く。そこで昨日乗ったタクシー会社に迎えのタクシーを依頼する。タクシーが来る間に栄川酒造(株)で新酒の酒を試飲し、3本のワンカップを購入する。新酒(試飲)は実に美味かった。店員さんに厩岳山山頂でマムシの歓迎を受けた話をすると、ここはマムシが多いとのことであった。ここで栄川酒造(株)のパフレットを頂いたが、それには「日本名水百選・磐梯山西麓湧水郡の清冽な水を使用した酒」とある。福ちゃんは帰路の鈍行列車中でこの3本のワンカップを飲み尽くしたが、帰宅後思ったのはこの源水の  $0.42 \mu\text{Sv/h}$  が気になった。

あらためて小出裕章さんの「我々は福島放射線下で生きるしかない」の言葉に打ちのめされた福ちゃんでした。

2015.9.17.記 完